

小平図書館友の会 会報 53 号



発行日 2025 年 5 月 15 日
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ウェブサイト <https://kltomonokai.wixsite.com/my-site>
ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>
E メール kltomonokai@gmail.com

ウェブサイト



ブログ



もくじ

- ・第 3 回チャリティ・ちょこっと古本市 報告 1
- ・障がいがある人もない人も、だれでも利用できる図書館をめざして 2
- ・学習会報告 5
 - YA を楽しむ会 / 読書サークル・小平β
 - 図書館について学ぶ会・ハンディキャップサービス学習会
- ・講演会予告 / 会員おすすめの本 6

～ 第 3 回 チャリティ・ちょこっと古本市 報告 ～

小平図書館友の会では、1998 年の発足当初からチャリティ・古本市を開催しています。この古本市は、小平市内外の市民から不要になった本を寄付していただき、廉価で販売して、純益金を小平の図書館で役立てていただくものです。本のリサイクル「人の手から手へ」も兼ねており、毎回、多くの方々から好評を得ています。コロナ禍の 2020 年から 2022 年までの 3 年間は、やむなく中止しましたが、2023 年、「チャリティ・ちょこっと古本市」と名付けて再開しました。（今年で通算 24 回）

今年は、延べ 4 日間（そのうち販売は 1.5 日）にわたる開催でした。

- ◇ 3 月 20 日（木/祝）会場設営 / （午後）寄付本受付・会場準備
- ◇ 21 日（金）寄付本受付・会場準備
- ◇ 22 日（土）販売 午前 10 時～午後 4 時
- ◇ 23 日（日）販売 午前 10 時～12 時 / （午後）後片付け・会場撤収



2025. 3. 22 古本市会場

コロナ前に比べると規模は小さくなりましたが、準備期間も含めてたいへん忙しい 4 日間でした。今回、学生アルバイト 2 人とボランティア 5 人の参加を得て、総勢 30 人がこの古本市に携わりました。年々、会員の高齢化が進むなか、若い力による応援がありがたく、日程の面でも余裕を持たせられたのがよかったと思います。

～第 3 回 チャリティ・ちょこっと古本市実績～

- ・集まった本（昨年からの繰越含む）：約 9,700 冊
- ・本を寄付してくださった人：約 220 人
- ・来場者数：約 800 人
- ・買っていただいた本の数：約 4,000 冊
- ・売上金額：約 185,000 円

売上金から必要経費を引いた金額を、物品寄贈（備品など図書館が希望する物品）の形で小平市の図書館に寄付しています。

また、古本市で売れ残った本は、来年用として保管しておくものを除いて、小平市内にある就労支援事業所「plans プランズ(注)」に引き取っていただき、さらに活用されます。その他、小平元気村おがわ東口ビーに本箱を設置し、来館者に提供しています。(入山弘之)

(注) plans プランズ <https://sorairolink.com/>

障がいがある人もない人も、だれでも利用できる図書館をめざして

小平市立図書館では、視覚に障がいのある方々等へのサービスのひとつとして音訳ボランティアによるデージー図書の製作と対面朗読を行っています。

今号ではデージー図書の製作や対面朗読を担うボランティアの方々の感想、対面朗読を利用している方々へのアンケート、まとめ役の図書館サービス担当職員の声をお届けします。

* デージー図書とは…Digital Accessible Information Systemの略で、「アクセシブルな情報システム」と訳されます。活字による読書が困難な方のために作られたデジタル録音図書(CD)。

* 対面朗読とは…図書館の本や新聞・雑誌、お手持ちの資料(チラシや取扱説明書)を音訳者(ボランティア)が読みます。個人の読書の秘密は守ります。市内のどの図書館(分室を除く)でも対応しています。



音訳ボランティアから

【音訳ボランティア：横瀬さん(デージー製作)】

何気なく見ていた市報の中に「音訳ボランティア募集」の文字を見つけ、その昔、読み聞かせの場で子供たちが目を輝かせて聴き入ってくれた時の楽しい記憶が蘇りました。私にも社会の中で何かお役に立つことができるかもしれない…心に小さな灯がぼっと点った気がして、そのまま勢いでこの世界に飛び込んでしまいました。

当然ながら、ゼロからスタートした音訳は学ぶことが満載でした。

「本を声に出して読む」という安直な最初のイメージとは違い、下調べや読みの技術、機械操作も必要で、その奥深さに戸惑うことがたくさんありました。

どのように音声化すれば良いか悩んだり、頭で分かっているつもりでもなかなか思い通りの表現ができなかったり、録音室で悶々とすることもよくあります。

逆に調子よく読み進み、ふと気付いたら録音スイッチを押し忘れていたり、誤ってデータを消去してしまったり、そんな失敗も経験しました。

語句のアクセントを意識するようになり、職業病みたいに気になったら即アクセント辞典を引いて確かめるなんてことも身につきました。

そんなこんなで悪戦苦闘しながら、正しく聞きやすく伝えるための勉強は十数年経った今でも続いています。

一冊の本を世の中に送り出すまでには一年以上掛かることもしばしばで、長く向き合っていると愛着が湧き、大袈裟に言うと子どもが巣立って行くような気分になります。

完成した時には、多くの方に会えるといいね、なんて思いながら、ひと仕事終えた達成感をちょっと味わいます。手放した後、利用者の方がどのように感じていらっしゃるかは残念ながら分かりませんが、次回作を待っているという声を伺った時は、嬉しくてとても励みになりました。聞いてくださってありがとうございます。

次はもっと上手に、著者や訳者が紡いだ言葉を大切に音訳できるように、頑張ってみようと思います。

拙い音訳ですが、本と利用者の橋渡し役になることができればとても幸せです。

【音訳ボランティア：平野さん（対面朗読）】

私が音訳ボランティアを始めてから4年が経ちます。子育ても終わり、何かボランティアをしたい…と考えていた時、市報で「音訳ボランティア募集」を見つけ、読書が好きなこともあり応募したのがきっかけです。

最初は週1回、そして月2回、今は月1回の講習会に参加し、情報共有や音訳技術の向上に努めています。講習をしてくださる先生は、音訳で活躍されている先達の方で、どんな質問にも的確にお答え下さり、個々の課題も励ましながら指導して下さいます。図書館のご担当の方も、丁寧に適切な準備をして下さいます。様々なサポートのお陰で、少しずつ手応えを感じながら意欲的に活動できていることに感謝しています。

私は毎月「対面」と「録音」を各4回ほど担当しています。今回は「対面」について書きます。対面朗読は1回2時間ボランティア2人で対応します。事前に資料がある時は下調べをして臨みますが、初見の場合もあります。音訳者は利用者さんの目の代わりですから、原本に忠実に読むことは前提ですが、意味の塊を考えて伝えることを大切にしています。また慣れてくるとテンポや説明の仕方など、ご希望に沿った配慮ができるよう気を付けています。

「対面」ならではの楽しみは、目の前の利用者さんのお役に立てること、合間に貴重なお話を伺えることです。喜んで頂けると大きな励みにもなります。以前、俳句の音訳をした時には「季語は何？解釈は？」と一緒に考えるのも楽しい機会でした。

利用者さんが、時には強風や雨の中、お越し頂く2時間を共に充実した時にできるよう、私達はしっかり準備をして臨みたいと思います。そしてこれからも、どんな方、どんな本に出会えるのかワクワクしながらボランティアを続けていきたいと思っております。ご興味のある方はどうぞ図書館にお尋ね頂ければ幸いです。

利用者の声



【対面朗読利用者：標（しめぎ）さん】

Q1：対面朗読を利用しようと思ったきっかけは何ですか？

—3年ほど前に朗読を頼みたいと思い図書館でやっているかどうか問合せました。

Q2：図書館で対面朗読を実施しているという情報をどこで入手しましたか？

—（特にどこかで入手したということではなく）図書館でやっているかと思い喜平図書館に電話で問い合わせました。

しばらくは喜平図書館を利用していました。

Q3：対面朗読を利用してみてのご感想をお聞かせください。

—対面朗読ではデージーになっていない本を読んでももらえるのが嬉しい。

サピエ（P.4 注参照）でデージー図書も利用している。デージー図書にどんなものがあるのかは検索などで探している。

【対面朗読利用者：池部さん】

Q1：対面朗読を利用しようと思ったきっかけは何ですか？

—中央図書館に通っていた他の視覚障がい者の方から紹介された。

デージーだと新しい本が中々入手できず困っていたところ、対面朗読ならリクエストに応じてもらえると教えてもらった。（新しい本が出た時にすぐに読める方法が欲しかったから）

Q2：図書館で対面朗読を実施しているという情報をどこで入手しましたか？

—同じ視覚障がいを持つ市内の友人から教えてもらった。

Q3：対面朗読を利用してみてのご感想をお聞かせください。

—デージーだと本が読めるようになるまでかなり時間がかかるので、出版された本をタイムリーに読んでももらえるのがとてもありがたい。

新しい情報を新しいうちに得られるので助かる。

【対面朗読利用者：林さん】

Q1：対面朗読を利用しようと思ったきっかけは何ですか？

—盲学校の取り組みの一つで対面朗読サービス（盲学校の専攻科の学生に対するサービス）の提供があり、そこで自治体でも同様のサービスがあることを知った。

サピエの中に必ずしも自分が読みたい本がなく、自分の読みたい本をタイムリーに読めるというのが一番の理由。

Q2：図書館で対面朗読を実施しているという情報をどこで入手しましたか？

——小平市にサービスの問合せをして、小平市でもサービスを受けられることを知った。

Q3：対面朗読を利用してみたいのご感想をお聞かせください。

——朗読中に疑問点があった時にすぐその場でボランティアさんに尋ねて、その疑問点（語句や内容）についての理解を助けてもらえる点が非常に大きい。

他者とコミュニケーションをとれる良い機会になっている。（視覚障がいになってから他者とのコミュニケーションが減っていた）

耳で読書することぐらいしか楽しむことがなく、読書が唯一手に入れられる文化的活動となっているが、その活動の領域や自らの思考の領域が対面朗読でボランティアさんと会話したり、情報交換をする中で豊かに広がっていくことがすごく実感できる。（他者との交流で得られるものはデジタルやAIでは得られない）

【注】サピエ

（視覚障害者情報総合ネットワーク）

「サピエ」は、視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して、点字・デージー図書のデータをはじめ、暮らしに密着した地域・生活情報など、さまざまな情報を提供するネットワーク。「サピエ」は、日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営を行なっている。「サピエ」の名称は、ラテン語の「サピエンティア」（sapientia：「知恵、叡智」の意）に由来する。

（日本点字図書館 HP 及び Wikipedia より）



おわりに ——

図書館利用に障がいのある方に向けて、小平市立図書館の『ハンディキャップサービスごあんない』の冊子が市内図書館のカウンターにあります。ふだんあまり目にしない情報がたくさん書かれています。

「だれでも利用できる図書館をめざして」いる図書館の姿勢がよくわかる冊子です。

図書館員から

【中央図書館ハンディキャップサービス担当：

黒川さん】

小平市立図書館では、平成 24 年に音訳ボランティアの募集を行い、平成 25 年から活動をスタートしました。活字による読書が困難な方のために、対面朗読（図書館資料や持参された資料の音声による朗読）やデージー図書製作等を実施しています。この活動は、地域のボランティアの皆様のご協力のもと、利用者が情報にアクセスできるようサポートするものです。

私は音訳ボランティア活動に携わる職員として、日々の業務において大きなやりがいを感じています。ボランティアの皆様と共に、利用者の方がより多くの情報にアクセスできるよう支援できることに非常に充実感を感じていますし、特に、ボランティアの方々の熱心な活動姿勢や、利用者一人ひとりに合わせたきめ細やかな支援ができた時は、この活動が地域社会にとってどれほど重要な役割を果たしているかを実感します。

また、この活動を通じて、地域とのつながりや、図書館が地域福祉に貢献しているという実感を持てることが、職員としてのモチベーションにもなっています。音訳ボランティアの皆様と共に、図書館が利用者一人ひとりに寄り添ったサービスを提供できることに誇りを持ちながら、日々の業務に取り組んでいます。

音訳ボランティア活動は、今後より多くの方々に利用していただけるよう、さらなるサービス充実を目指しています。様々な資料を音訳することに加え、音訳ボランティアのスキル向上を目指した研修なども実施しております。

また、これからもボランティアの皆様とともに力を合わせ、地域の福祉向上に寄与していきたいと考えています。利用者の皆様に、多くの情報と知識を提供できるよう、今後も一層の努力を重ねていきます。

音訳ボランティア活動は、図書館の中でも大切なサービスの一つとして、多くの利用者に愛され、支えられてきました。今後も、この活動を通じて利用者に情報を届け、誰もが利用しやすい図書館を目指して参ります。

学 習 会 報 告

Y A を 楽 し む 会

Y A を楽しむ会で取り上げられる本はティーンエージャー向けの本です。月2冊の課題本は皆で決めています、子ども時代に呼んだ本もあれば、私は全く知らず初めて出会う本も多いです。テーマも様々で、今期は、トランスジェンダー『兄の名は、ジェシカ』、腰から下がつながった結合双生児の物語『わたしの全てのわたしたち』などの本を読みました。

4月の『星の王子さま』は子どもの頃に読んでいますが、さりげない対話の中に人生の本質を突くようなことばが見え隠れしていて、改めて名作だなと思いました。

2冊の本を、メンバーと脱線も含めて自由に語り合う時間がとても心地よく、本を多角的に捉え深堀して愉しんでいます。マイペースな私は、当日までに課題本が読めずに、メンバーの感想を聞いてから後追いで読むこともあります。最近は絵本も取り入れています、絵本と言っても、考えさせられる内容が絵と共にシンプルに心に刺さってきます…。

関心のある方、お仲間になりませんか？

(内田清子)

— 2024年11月～2025年4月のテキスト —

■11月22日(金)

『木の中の魚』 リンダ・マラー・ハント 著
講談社

絵本『動物会議』 ケストナー 作 岩波書店

■12月20日(金)

『兄の名は、ジェシカ』 ジョン・ボイン 著
あすなろ書房

■1月24日(金)

『種をまく人』 ポール・フライシュマン 著
あすなろ書房

絵本『ぼくは川のように話す』

ジョーダン・スコット 文 シドニー・スミス 絵
偕成社

■2月28日(金)

『わたしの全てのわたしたち』
サラ・クロッサン 著

ハーバーコリンズ・ジャパン

『豆つぶほどの小さいぬい』 佐藤さとる 著
講談社

■3月28日(金)

『明日、晴れますように』 川上弘美 著
朝日新聞出版

絵本『戦争は…』

ジョゼ・ジョルジェ・レトリア 文
アンドレ・レトリア 絵 岩波書店

■4月25日(金)

『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ 著
岩波書店 他

『夜間飛行』 サン＝テグジュペリ 著
新潮社 他

読 書 サ ー ク ル ・ 小 平 β

第1回を2022年7月17日に開催して以来、2カ月ごとに行い、第17回を2025年3月16日に行いました。毎回、12～14名ほど(うち女性3～4名)の参加を得て、第2あるいは第3日曜日の午後2時から2時間半ほど、小平市中央図書館3階の視聴覚室で行っています。

課題本は、政治・経済・社会・言語・文学・歴史・科学など幅広い分野から千円程度のなるべく新しい新書を原則に、参加者の推薦本を多数決で選んでいます。推薦者が報告者になり、まず課題本の紹介等を行い、その後、参加者から感想やコメントを述べてもらい、若干の対話をしていくという流れで行っています。

多様な背景を持つ参加メンバーがほぼ常連化して来ました。毎回1、2名の入れ替えがあります。

「小平図書館友の会ブログ」に当日の資料がありますので、ぜひご覧ください。課題本に関係する本を読まれば、さらに知識が深まり、視野が広がると思います。

次回 第18回は5月25日に行います。課題本は、佐野晋平 著『教育投資の経済学』日経文庫(2024.1.25)です。お気軽にご参加ください。

(加本 実)

— 2024年11月～2025年3月の課題本 —

- 第15回 11月17日 山本圭『嫉妬論』
光文社新書 (2024.2.15)
- 第16回 1月19日 齋藤純一
『不平等を考える』ちくま新書 (2017.3.6)
- 第17回 3月16日 三宅香帆
『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』
集英社新書 (2024.4.17)

図書館について学ぶ会・ハンディ キャップサービス学習会

学ぶ会では学校図書館について勉強中です。なかなかメンバーが集まることができず散漫な会になりそうで反省しきりですが、集まればやはり子どもたちの読書環境をなんとか整えたいと課題の掘り起こしを行っています。令和5年4月から、表現も立場もあいまいだった学校図書館協力員の名称が学校司書と変わり、一歩前進しました。しかし学校図書館の館長を兼務する校長先生や司書教諭や担任の先生とのかかわり、また学校間の連携などいくつかの問題もないわけではありません。また、これからの時代、タブレットを用いた学習を否定はしませんが、本を開いてじっくり調べる行為は子どもたちにとって大事な体験だと思います。学ぶ会では、現状を知り理解を深めて課題解決のために各所に働きかけられたらと思います。

ハンディキャップサービス学習会では3月に行われた図書館主催のハンディキャップサービス交流会に協力団体として参加しました。この会は、図書館、障がいのある方、ボランティア、ハンディキャップサービスに関心がある方、図書館友の会のメンバーが集まり、情報交換を行うものです。一年に1回の機会ですので出来れば多くの方々に参加していただきたくさんの意見を集めたいところですが今回は参加者が少なく残念に思いました。この会報にも載せましたが、図書館のハンディキャップサービスにはいろいろなメニューがあります。ぜひ関心を寄せていただきたいと思います。

(剣持香世)

★ 講演会 予告 ★

主催：小平図書館友の会

後援：小平市教育委員会

宇宙の天気とその周辺

—太陽活動の仕組みと影響を予測する—

講師：情報通信研究機構(NICT) 齊藤慎司さん

日時：2025年6月7日(土) 13:30～15:30

会場：小平市中央図書館 3F 視聴覚室

定員：70名 先着順 中高生も歓迎

申込み・問合せ

メール kltomonokai@gmail.com

電話 090-4930-6028 入山

～会員からの「おすすめ本」～

北方謙三「大水滸伝」三部作 集英社刊

『水滸伝』全19巻(単行本・文庫)

『楊令伝』全15巻(単行本・文庫)

『岳飛伝』全17巻(単行本・文庫)

壮大な歴史小説。時間をかけてじっくり読んでみたい・時間もある・読み通す根気もある——三拍子そろった方におすすめしたい小説。

歴史小説といっても、中国の四大奇書の一つとされる『水滸伝』をベースにしながら、北方謙三らしく、血沸き肉躍る物語が展開されています。

原典の『水滸伝』をご存じの方から「こんなのは水滸伝じゃない!」と言われそうですが、それでいいのです。『楊令伝』は『水滸伝』に登場する脇役の少年「楊令」が成長し、やがて「梁山泊」の豪傑たちを率いる物語ですし、その続編『岳飛伝』となると、梁山泊に対抗する宋(南宋)の軍閥「岳飛」(＝実在の人物)を中心に展開する物語です(詳しい内容はネタバレになるので…)。

私は、単行本を避け、文庫版を置いている図書館を探して、2022年の暮れから2023年の夏にかけて、まるで憑かれたように読み続けました。あえて文庫版にこだわったわけは、作者が文庫化にあたって加筆訂正していることと、なんといっても持ち歩きが楽だから。それにくわえ、文庫版の各巻末に付いている解説を読む楽しみがあります。この三部作の続編ともいえる『チンギス紀』(全17巻/集英社)も面白いですよ。

(入山弘之)